

# 農業のための水、水道や電気のための水

環境  
地域産業

第1章 十勝の平野や川ができるまで

第2章 先史時代と川

第3章 アイヌ文化と川

第4章 十勝開拓と川

第5章 発展、今、そして未来へ

用語  
さくいん



川の水は、さまざまなかたちで、わたしたちとかがわっている。写真の川は札内川(上札内橋上流・中札内村)。

川の水は、わたしたちの暮らしの中でさまざまな形で役立っています。

田畑をうるおす「かんがい用水」、飲み水など生活の中で使うための「水道用水」、発電のために使われる「発電用水」、工場で使われる「工業用水」など、川の水は知らず知らずのうちに、わたしたちとかがわっているのです。

もう一つ忘れてはならないことは、わたしたちが使った水も、ほとんどが川に流されているということです。

川の水というのは、ただ川を流れているだけではなく、わたしたちの暮らしの中を流れ、さらにはわたしたちの体の中を流れているといってもいいのです。

## かんがい用水 ... 十勝頭首工

農作物も植物なので、水を必要とします。水田には必ず水路で水を引かなければなりません。畑であっても、雨が少なければ、作物は干からびてしまいます。

札内川頭首工(中札内村・札内川) 幕別ダム(幕別町・稲士別川) 美生ダム(芽室町・美生川) などからは、畑に水が引かれています。ただし、ほとんどの水路が地下を通されているので、水路を見ることはできません。

昭和38年(1963)にできた十勝頭首工(土幌町・音更川)からは、土幌町、音更町を通して十勝川まで地上に水路がつくられています。

水路を見ることはできますが、岸は急であり、深さや流れもかなりあります。近づきすぎないように、気をつけましょう。



(上) 十勝頭首工(音更川・土幌町字土幌)。



(右) 十勝頭首工で取られた水は、土幌町と音更町の用水路を流れる。

## 飲み水はどこから? ... 上札内から池田まで60km

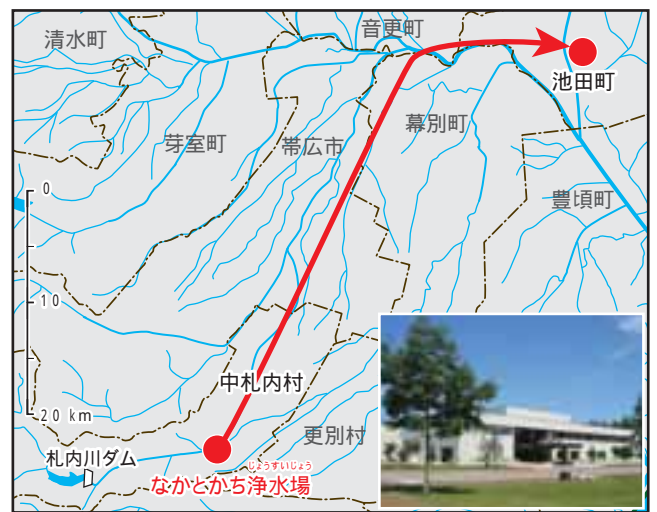
自分がふだん飲んでいる水が、どこから送られてきているか知っていますか?

川の水から引いているところもあれば、地下水から引いているところもあります。また、わき水から引いていることもあるかも知れません。

例えば、池田町の市街地へは、中札内村の上札内にある「なかとかち浄水場」から60km以上もの長さの送水管がしかれ、それを通して水が引かれています。そして、浄水場へは、さらに札内川の上流から水が引かれています。

もっと上流にある札内川ダムは、この水道用水がいつでも取れるように、札内川に流す水の量を調整しています。

なお、池田町までの水は、ポンプなどの力を使わずに、高さの差によって送られています。



なかとかち浄水場(中札内村)から池田町の清見配水池まで、60km以上の送水管を通して、水が送られている。写真は、なかとかち浄水場。

1 頭首工(とうしゅこう): 川などから農業用水を水路へ取り入れるための施設全体をいう。せきや取水口などをふくむことが多いが、必ずしもせきがあるとは限らない。  
2 なとかち浄水場(なかとかちじょうすいじょう): 通称「ワックアブラザ」。平成7

年(1995)水道水供給開始(第1期)。ここからは、更別村・中札内村・帯広市・芽室町・幕別町・音更町・池田町に水道水が送られている。  
3 十勝で起こされる電気(とかちでおこされるでんき): 十勝以外で起こされた電気も

## 電気を起こす水 ... 糠平ダムの水はどこへ

十勝で起こされる電気のほとんどは、水の流れて発電機を動かす水力発電によるものです。

大正6年(1917)には、佐幌川の発電所(清水町)が芽室をへて、帯広まで電気を送っていました。

十勝川(岩松)、楽古川、浦幌川上流、美生川、芽室川、然別川、帯広川、戸蔦別川、糠内川、足寄川など、各地に大小の水力発電所がつけられました。

中札内村のピョウタン滝(札内川)も、もとは昭和29年(1954)にできた水力発電用のダムだったのが、次の年の洪水によって土や石でうまったものです。

昭和31年(1956)、音更川上流に糠平ダム(上士幌町)ができました。このダムにためられた水は、現在、糠平発電所で電気を起こしたあと、水路を通して利別川まで送られていく間に、4つの発電所で電気を起こしています。

ほかに、然別湖から十勝川まで送られる水により、3つの発電所で電気が起こされています。

十勝川には十勝発電所(十勝ダム)など、5つの発電所があり、札内川ダムにも札内川発電所があります。



糠平ダム(上士幌町:音更川)。ここにためられた水は、計5つの発電所で電気を起こしたあと、本別町で利別川に流される。



糠平発電所(上士幌町)の発電機。



本別発電所(本別町)。糠平ダムの水は、ここまで送られてきて利別川へ流される。

## 工業用水 ... 土幌のでんぷん工場

工場ではものを洗うためや、お湯を利用するためなどに、多くの水を使います。地下水をくみ上げることもよくありますが、川から引くこともあります。

土幌町にあるでんぷん工場では、音更川にせきをつくり、そこから地下の水路を通して水を引いています。

でんぷん工場では、原料のジャガイモを洗う時のほかに、すりつぶしたイモからでんぷんを洗い出す時に、水が使われます。



(上)土幌町のでんぷん工場(土幌町農業協同組合澱粉工場)。

(右)工場で使う水を取るためのせき(音更川・土幌町)。



## 川に流す水 ... 浄化施設

わたしたちがものを洗ったり、風呂で使ったり、トイレで流した水はよごれています。

そのまま流しては、川や地下水をよごしてしまいます。

そこで、流す前に浄化施設を通すことで、きれいになっています。

各家庭に浄化槽がある場合もあり、よごれた水を下水道に流して下水処理場できれいにすることもできます。

また、工場などからよごれた水が出る時も、浄化施設できれいにしてから川に流します。



「十勝川流域下水道浄化センター」(帯広市西18条北3丁目)。帯広市・音更町・芽室町・幕別町からの水を処理する。

十勝に送られていて、また、その電気に十勝で起こした電気を合わせて、十勝だけでなく、広く北海道東部の電気として使われている。

4 十勝のおもな発電所(とちかのおもなはつでんしよ): 糠平系では、幌加発電所(幌

加川)、糠平発電所(音更川)、芽室第一・第二発電所(美里別川)、足寄発電所(利別川)、本別発電所(利別川)、十勝川では、富村発電所、十勝発電所、上岩松発電所、岩松発電所、熊牛発電所。札内川では、札内川発電所。ほかに、然別第一・第二発電所など。

第1章 十勝の平野や川ができるまで

第2章 先史時代と川

第3章 アイヌ文化と川

第4章 十勝開拓と川

第5章 発展、そして未来へ

用語

さくいん